



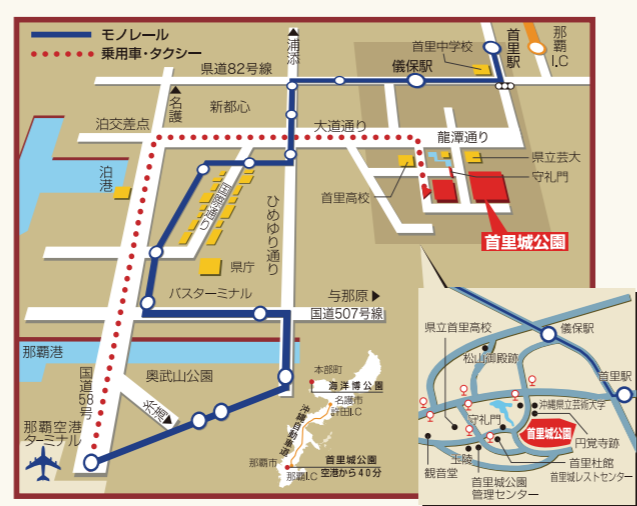
首里城公園企画展

琉球の江戸参府



アクセス

- 1. 路線バス**
- 市内線 ① 14 17 番・市外線 346 番に乗り、首里城公園入口のバス停にて下車、徒歩約5分で守礼門に到着。
 - 首里城下町線 ⑦ ⑧ 番に乗り、首里城前にて下車。徒歩1分で守礼門前に到着。
 - 市内線 ⑨ 13 番市外線 25 97 25 番に乗り、山川バス停にて下車、徒歩15分で守礼門に到着。
- 2. 観光バス・乗用車・タクシー**
- バス・乗用車・タクシーは、首里杜館（首里城公園レストセンター）地下駐車場にゆとりがある場合、係員の誘導により駐車することができます。
- 首里杜館駐車場ご利用料金
- 大型バス 960円 (回数券11回分9,600円)
 - 小型車 320円 (回数券11回分3,200円)
- 首里杜館駐車場開館時間
- 4月～6月 8:00～20:00
 - 7月～9月 8:00～21:00
 - 10月～11月 8:00～20:00
 - 12月～3月 8:00～19:00
- ※尚、駐車場の予約は修学旅行団体に限ります。(バスのみ)
- 3. モノレール (ゆいレール)**
- 首里駅または儀保駅にて下車。徒歩約15分で守礼門に到着。



ご利用案内

■入館料金 ※車イスでもご覧いただけます。

	大人	中人 (高校生)	小人 (小・中学生)	6歳未満
一般	820円	620円	310円	無料
団体	660円	490円	250円	
年間パスポート	1,640円	1,240円	620円	

- 正殿、南殿・番所、書院・鎖之間、黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院、北殿、奉神門のある区域は有料ですが、それ以外の場所への入園は無料となります。
- 団体は20名様以上
- モノレール(愛称:ゆいレール)のフリー乗車券(一日券・二日券)をご利用中のお客様は、首里城公園券売所窓口にて乗車券の提示により、団体料金の適用となります。
※フリー乗車券の有効期限内において、1枚につきお一人様1回限りの割引となります。

- 開館時間**
- 4月～6月(8:30～19:00) 入館券販売締切 18:30
 - 7月～9月(8:30～20:00) 入館券販売締切 19:30
 - 10月～11月(8:30～19:00) 入館券販売締切 18:30
 - 12月～3月(8:30～18:00) 入館券販売締切 17:30
- 休館日**
- 7月の第一水曜日とその翌日

首里城公園管理センター

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1丁目2番地
 TEL098-886-2020(代) FAX098-886-2022
<http://oki-park.jp/shurijo/>

お問合せ

黄金御殿特別展示室

御座楽
 ～献上された琉球樂器～
 2018.11/30(金)～2019.1/31(木)

南殿二階特別展示室

琉球使節と楽童子
 2018.12/14(金)～2019.1/31(木)



琉球の江戸参府

南殿二階特別展示室

琉球使節と楽童子

2018.12/14(金)~2019.1/31(木)

初公開!

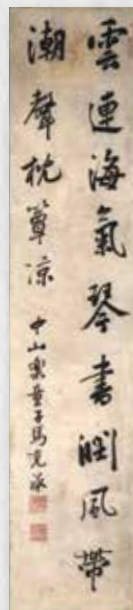


琉球使節行列図



御免琉球人行列附

1842(天保13)年、徳川家慶の将軍就任を祝つため派遣された琉球使節(慶賀使)を描いた木版の刷り物。版元(出版業者)は、江戸を訪れる使節団の情報を入手して印刷したものの人々に販売しました。



馬克承書



馬兼才書

◆琉球のエリート集団 楽童子

楽童子は、江戸参府における琉球使節の役職の一つで、15~18歳位の少年たちで構成され、江戸城や薩摩屋敷において音楽や舞踊の演奏を担当しました。

琉球の士族は教養の他、三線や踊りなどの芸事を嗜むことが求められていましたが、その中でも楽童子は芸能や書、詩歌、茶道などにも優れ、かつ容姿端麗な士族家系の少年が選抜され、エリートでありながらアイドル的な存在でもありました。そんな彼らの江戸参府の様子を、貴重な絵画や書跡などの資料を通して紹介いたします。



舞楽図

1832(天保3)年頃に描かれた『舞楽図』は、楽童子の役割が象徴的に表現された12m余もある色鮮やかな絵巻物です。上の写真は、江戸に設けられた薩摩屋敷で、藩主にお茶を献じ、居並ぶ大名たちの前で書をしたため(席書)、楽器の演奏(御座楽)をしている場面であるとされています。また、その他の場面では様々な楽器の演奏にのせて歌や踊りを披露している様子が描かれています。江戸参府の歴史や琉球芸能を知る上で貴重な資料です。

◆江戸でも大評判!? 楽童子の書

『舞楽図』には楽童子の席書の様子が描かれていますが、現代のアイドルがファンに求められてサインを書くように、武士などに求められて書をしたためたものと思われる。写真の書跡には「中山楽童子」と、琉球使節の一員として肩書が記されています。とても十代の腕前とは思えないような見事な書をぜひお楽しみください。

江戸時代、徳川将軍の代替わりや琉球国王の即位ごとに江戸に派遣された琉球使節。彼らは琉球楽器を携えて様々な場面で演奏し、また歌や踊りも披露しました。

本展では、琉球使節の江戸参府(江戸上り/江戸立)の様子、琉球使節の一員である楽童子の役割が垣間見られる絵画や書跡、そして、演奏に使用された琉球楽器の復元資料を展示し、琉球と日本の文化交流を紹介いたします。

黄金御殿特別展示室

御座楽 ~献上された琉球楽器~

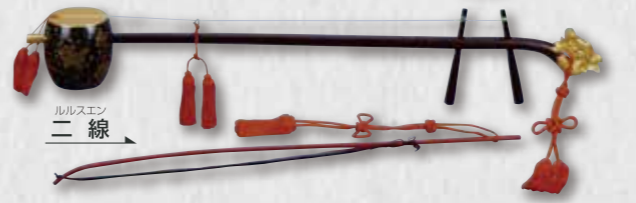
2018.11/30(金)~2019.1/31(木)



三線(短)

四線

琵琶



二線



横笛



哨



夜雨琴



三板



新心



銅鑼

◆御座楽とは

御座楽は、首里王府で儀式の際に演奏された音楽で、室内で座して演奏することから「御座楽」と呼ばれました。中国から伝来し明清楽系の流れを汲む音楽で、20種類ほどの楽器を様々な編成で演奏します。その演奏を担ったのは楽童子で、首里城にて冊封使を歓待する宴で演奏したほか、江戸参府では江戸城や大名屋敷でも演奏するなど琉球の公式行事では欠かせないものでした。王国の崩壊によりその伝承の場は失われ一度は途絶えてしまいましたが、近年様々な調査研究が行われ、首里城公園では新春の宴など再現儀式の際に演奏されています。



琉球人舞楽の図

◆琉球へ伝わった琉球楽器

楽器は14~15世紀に中国より琉球に伝わったとされています。その後首里王府の式楽の演奏楽器として王府内の様々な儀式に用いられるようになりました。また楽器は、演奏するだけではなく献上品としても用いられており、琉球漆器の高い技術を集め精巧かつ色鮮やかに製作され、水戸徳川家や尾張徳川家などへ献上されました。

今回は、1790年に尾張徳川家へ献上され今も徳川美術館に収蔵されている楽器一式を6年の歳月をかけ模造復元したものを展示いたします。きらびやかに蘇った琉球楽器をご覧ください。

~関連イベント~

①撮影スポット「With 楽童子&琉球楽器」

場所 黄金御殿・正殿フロア
SNS投稿OK!あなたも楽童子メンバー?!

②ギャラリートーク

実施日 12/22(土)、1/5(土)、1/19(土)

展示資料を前に学芸員が解説。
御座楽の楽器の一部を聴くことができるかも。